

## 日本鐵鋼協會第24回通常總會記事

(昭和14年4月2日(土)午前11時40分開會)

(東京市麴町區丸ノ内三丁目四番地 帝國鐵道協會館に於て開會)

## 第24回通常總會開會之辭

日本鐵鋼協會々長

工學博士 齋藤大 吉

只今より本會の第24回通常總會を開會致します。出席會員225名、委任狀に依る者435名、合計660名であります。定款に依る定數を充分満して居ることになって居ります。

定時總會を開くに當りまして、先づ一昨年來硝煙彈雨の中に能く幾多の艱苦缺乏に堪へつゝ支那各地に於て多大の戰果を收めつゝある出征將士の武運長久を祈り、且其の間不幸護國の鬼となつて無言の凱旋をなされました幾多の英靈に對しまして深甚なる謝意と弔意とを表する爲め諸君と共に30秒間の默禱を捧げたいと思ひます。御起立を願ひます。

默禱30秒

## 會務報告

又本會として實に痛痕に堪へないことは、元本會監事濱田 彪君が昨年11月上旬突如腦溢血の爲御逝去になつたことであります。同君は昭和2年以來本會の評議員として、將又監事として、熱心に其の發展に御盡力下さつたのであります。昨年此の事あるに至りましたことは誠に悼惜の至りに堪へない次第であります。

次に私は昨年度中に本會に起りました四五の事項に付て皆様に御報告申し上げたいと思ひます。

**第一は本會々員の數**のこととありますが、本年2月末の現在に於て本會員は正准を合せて3,015名に上りました。過去1箇年の増加は616人でありまして、此の増加人員は其の前年の増加人員の203名に比較致しまして3倍以上の増加を示して居ります。是は昨年來有力なる皆様方に御願致しまして御紹介を願ひましたことが其の効果を生むに至つたことと考へまして、本會の發展上誠に喜ばしいことと存するのであります。尙今後とも皆様から多數の入會者の御紹介を御願ひ致して置きます。

**第二は日本鋼管及び日本特殊鋼兩會社よりの資金の寄贈**

であります。既に會誌で御覽になりました通りに、昨年5月日本鋼管株式會社々長白石元治郎氏より本邦製鐵業に關する學術上並技術上の進歩發達に資すべき調査研究並に之が普及促進に要する經費支辨の基金として金30萬圓を本會に寄贈されたのであります。又昨7月には日本特殊鋼株式會社々長渡邊三郎氏より特殊鋼の學術上及び技術上の進歩發達に貢獻しました學者、技術者、工員等を獎勵し、又は表彰し、又本會の目的達成上有效適切と認めらるゝ事項に要する經費支辨の基金として金5萬圓を寄贈されたこととあります。本會は其の趣旨に従ひまして此の兩寄贈資金の取扱規則及び内規を制定致しまして、之を最も有效適切に利用するの途を講じつゝあるのであります。

今是迄に採りました手段の二三に付て簡単に申述べたいと思ひます。先づ日本鋼管資金の利用の第一着手と致しましては研究部會の内容を強化する爲に先づ其の内規を改正致しまして、銑鐵、製鋼、鋼材、鑄物、鐵鋼科學、燃料經濟及經營の7部の研究部門を設けました。一定の題目の研究を終了する迄は委員長を常置として、さうして準備が出来次第隨時其の研究會を開くことに致しました。先づ燃料經濟部會に於て昨年10月大阪市に於ける大會の砌に海野博士を委員長に煩して**鑄鑪の熱勘定**に關する研究部會を新内規に依て開きましたのを初めと致しまして、昨日は又當地に於て晝間は矢張り海野博士を委員長として**平爐に關する熱勘定**の研究會を開會し、又夜間は吉川博士を座長として**電氣爐に關する研究會**を開きました。又其の委員長としては當日已むなきことで御缺席になりました川崎舎博士に御願することになりました。昨日は吉川博士に代て主宰致して戴いたのであります。

又他の學會との共同に於ては先づ機械學會と聯合致しまして**自動車用鋼材の研究會**を吉川博士を委員長として去る2月23日第1回を開催致しました。又第2回は來月の4日に開催する豫定になって居ります。更に日本窯業協會と

聯合致しましては**耐火煉瓦に関する研究会**を本月の 21 日に開く豫定になって居ります。

その他鑄物協會と聯合致しましては石川博士を委員長として**鋼鑄物に関する研究会**を開くことになり目下其の準備中であります。

その他學術振興會と聯合しては**高温度測定に関する研究会**或は講習會を開くことと致しまして、委員長としては俵博士になって戴くことに御内諾を得て居ります。

以上の如く進行致して居ります。而して是等に要する経費は總て日本鋼管より寄贈された資金に仰ぐことになって居ります。

又先般皆様の御手許に御送り致しました鐵鋼關係法規參考資料と名付けました印刷物は商工省の足立技師を煩まして資料の提供を受けまして、矢張り此の日本鋼管資金に依て印刷致したものであります。

次に日本特殊鋼株式会社寄贈資金の利用に付きましては、其の第一回と致しまして後刻渡邊賞牌及び渡邊賞金を榮譽ある受賞者に贈呈することになつて居ります。

**第三には臨時講演會**の開催であります。從來本會は臨時講演會と致しまして年に一兩回適當の講師を頼んで開いて居りましたが、近來鐵鋼業が盛んになりました關係上、鐵鋼に関する知識の普及及び發達を圖るが爲に昨年 10 月以降毎月業界の知名の士を聘しまして東京市に講演會を開催致して居りまして先月で丁度第 5 回を終りました、是は毎回百數十名の來聽者がありますが、今後も會員外の來聽者も歓迎致しますから、どうかそれ等の人も御誘合せの上多數御列席にならむことを希望致して置きます。尙地方に居られる方も機會ある毎に此の講演會を御聴き下さることを御勧め致して置きます。

**第四は關西支部**のことです。京阪神地方には多數の本會の會員が居られますので、時節柄矢張り相互の知識交換及び懇親を圖るの目的で以て大阪市に日本鐵鋼協會關西支部を設置するの議が熟しまして、本部の許可を受けまして、去る 20 日大阪市に於て其の發會式を挙げまして役員及び支部長を選擧致しました。それで荒木 宏氏が支部長に擧げられ、又役員約 19 名が決定致したのであります。それで今後の活動方針等も協議せられて居るやうであります。差當ては 1 箇月置きに講演會、座談會、見學會等の如きものを催すことになつて居ります。私は本會の地方に於ける草分の支部たる關西支部が是から健全に發達して呉れまして、さうして本會の活動の一大支柱たることを念

願致して居ります。又其の他の鐵鋼事業の中心地である各地方に於ても矢張り此の種の支部が續々設置されまして、本會の發展事業の遂行に協力さるゝに至ることを此の席より切望致して置きます。

**第五は野田文庫**のことです。本會の前會長であり、又日本製鐵株式會社の常務取締役であつた故野田鶴雄博士の功績を永く記念するが爲に作られた故野田鶴雄君記念事業會から本會に寄贈されました野田文庫資金に依る野田文庫の設立は水谷前會長の時代より準備を進められて居りましたが、昨年度に於て和洋の新刊書籍約 320 冊、價格にして 5,200 圓と云ふものを購入致しました。又本年初めよりは英、米、獨、佛の専門雜誌 18 種が到着しつゝあるのであります。それ等の目録は先日皆様の御手許に差出した筈であります。尙今後毎年相當額の費用を以て新刊書を購入備へ付ける筈でありますから皆様に於て御利用を御願致します。又其の閱覽室は目下甚だ手狭であります。併し近き内にはそれを出来る丈け擴張して氣持の良きものにしたいと考へて居る次第であります。

**第六は鐵鋼要覽**のことです。鐵鋼要覽の印刷出版は時局柄一部執筆者の内に極めて御多忙の方があられた爲に此の原稿が遅れて居りまして段々と延引になつて居りますが、併し大部分の原稿は既に集りまして、之を編輯員の方に御願して又讀んで戴き、逐次進行して居りますから、遠からず出版の運びになり得ることと存じますから、左様御承知置きを願ひます。

以上を以て大體昨年度中に起りました主な悲しむべき、或は非常に喜ぶべき事項を皆様に御報告申上げた次第であります。

次に議事に入るに先立ちまして前例に依りまして、昨年度中に於ける内外鐵鋼界の概況に付て申上げ、併せて聊か私の感想を申上げたいと存じます。

### 内外製鐵鋼業の最近の情勢

先づ本邦の製鐵事業に付ては御承知の通り時局柄私共は之に関する詳しい統計表を得ることが不可能であります。又假令之を知て居りましても其の發表は禁ぜられて居りますから、遺憾ながら其の數字のことは省略致します。併ながら一昨年に比べますと、昨年は日滿を通じて鉄鐵及び鋼の生産は相當増産して居ることと察せられるのであります。以下私は本邦の製鐵業の最近の情勢に付て概括的に申述べて見たいと思ひます。

先づ銑鐵に付ては日鐵關係に於て八幡釜、石兩製鐵所に於て各々1基づゝの大熔鑛爐に火入を行ひ、最近は非常に好成績を示して居ると云ふことであります。又輪西、廣畑に於ける二大製鐵所の建設工事も豫想以上に進捗致して居ります。又日鐵以外では日本鋼管の第3熔鑛爐が今年の春に操業を開始して好成績を収め、鶴見製鐵の第2熔鑛爐も同様であります。又小倉、中山兩製鋼所の新熔鑛爐も此の5月頃になりますと其の吹立を行ふことになつて居ります。又新しく設立された尼ヶ崎製鐵會社の新熔鑛爐の建設工事も昨年来着々進行して居り又同じく尼ヶ崎にある大谷製鋼所の熔鑛爐も最近基礎工事に掛かつたとのことであります。でありますから是等の熔鑛爐、或は今後尙作られる熔鑛爐が能力を充分に發揮するやうになりましたならば、目下非常に逼迫して居ります銑鐵の需給關係も遠からずして大いに緩和されるのではないかと考へて居ります。

又鋼に付ては各所に於て平爐の増設があり、又鋼鑄物及特殊鋼製造の爲の電氣爐の増設が昨年中なかなか旺盛でありますことは諸君の夙に知られる所であります。更に又喜ぶべきことは前會長今泉博士に依て多年提唱されて居りましたトーマス製鋼法が昨年6月日本鋼管會社に於て呱呱の聲を揚げまして是又極めて好成績を収めて居ることです。是は来る4日諸君と共に拜見させて頂くことになつて居ります。其の他近年砂鐵利用の工業化が各地に於て着々進められて居りますことは注目に値することと信じます、即ち兵庫縣の日本砂鐵工業を初め、青森縣の特殊鋼管の如き電氣爐に依る製鋼、或は回轉爐に依る製銑等が始められ、又岩手縣久慈に於ても川崎造船所のクルップレン法に依る砂鐵からのルツペ製造も既に試運轉を開始して居ると云ふことであります。又先刻大原技師に依て有益なる御話のありました休眠セメント窯に依る貧鐵鑛或は硫酸滓からの製銑法が各所で試験されて居ることも時節柄實に喜ぶべきことであると信じます。

### 朝鮮滿洲支那の近況

以上は内地のことを極くざつと申し上げたのであります。更に目を朝鮮、滿洲、支那、等に轉じて見ますと云ふと昨年来清津に建設中であつた三菱鑛業のレン法も近く試運轉を開始するやうに傳へられて居ります。又稀に見る茂山の大鐵鑛床も其の選鑛設備が着々建設されつゝあるのであります。其の他鞍山の昭和製鋼に於て昨年来4基の大熔鑛爐が吹立を終りまして、相當の好成績を擧げて居ると云

ふことであります。又クルップ・レン法の工場も建設中であると聽きます。而して今後本溪湖の煤鐵公司の擴張と相俟て更に一段の大擴張が昭和製鋼所に行はれると云ふことを承て居ります。又日下氏の撫順に於ける海綿鐵及特殊鋼工場も建設されて居ると云ふことも承て居る譯であります。其の他支那に於きましては昨年11月初頃石景山の製鐵所が小規模ながら復活したのを初め、更に揚子江沿岸の大冶、蕪湖附近、其の他の豊富なる鐵鑛床も其の開発準備が着々進められて居るやうでありますから、我が國の製鐵業の原料に對して一般に強味を加へるものと考えます。斯の如くして昭和16年を以て完了致すべき日滿支を通ずる製鐵業の5箇年計畫が豫定通りに完成する曉に於ては本邦の鐵鋼生産額は遙に佛國を凌ぎ、亞いで英國の壘を摩し、或は之を超越して一躍世界第4位に突進するのではないかと考へられるのでありまして、私共は其の日の一日も速かに來ることを祈りますと同時に皆様の御奮闘を念願する次第であります。

### 研究の近況

次に我が國に於ける鐵鋼に關する學術的、實際的の方面の研究に付て考へて見ますと云ふと、毎年春秋二季の本會の講演大會に於て各方面より誠に有益にして、深遠なる御研究の結果が多數發表されて居ります。而して其の内容に至ては歐米各國のそれに比して優るとも決して劣らざる域に達して居り本邦製鐵鋼の學術及び技術に貢獻する所實に大であることは私が囁々申上げる必要はないと存じまして非常に御同慶に堪へない所であります。

又學術振興會に於ては前會長俵博士を委員長とする第19小委員會に於て兵器用特殊鋼材に關する研究が過去4年間に互て續行されて居ります。是は官民一致多大の犠牲を拂て研究討議を重ねて居ります。其委員としては官民の工場から學識經驗ある知名の技術者多數の外に各大學からも委員が出て居ります。例へば理科關係に於て東北大學の本多、村上兩博士を初め、北海道大學の高温度に於ける物理化學を專攻されて居る柴田博士、分析化學の大家である東大工學部の宗宮博士、或は東大理學部の西川博士、志村博士等の學者も出席されます。さうして此種鋼材に發生する缺點の原因探究及之を除去する爲めの製鋼法、鍛鍊法及熱處理等の改善に關して今日まで多大の効果を収めて居りまして其の報告書が既に第7卷迄發表されて居ると云ふ有様で時局柄兵器製造の方面には多大の貢獻を爲して居

ることを私は疑はないのであります。又其の副産物としては光高温計の改良及之をアジャストする爲めの標準ランプの國産化、吳工廠佐々川博士、及び八幡製鐵所田所博士等熔鋼の溫度を直接に突込んで測る直接測定用パイロメーターの發明等があります。又鋼の中の有害ガス、即ち窒素、酸素、水素等の標準分析法を制定致しました。而して此の水素の定量法に付ては本日俵博士から御講演があるやうであります。それから又非金屬性介在物の測定及分析法等も近く定められることと信じて居ります。斯の如くどしどし成績を収められて居りますが、是は單に特殊鋼の製造のみならず、普通鋼の製造に於ても採て以て参考に資すべきことが甚だ多いと信ずるのであります。殊に私が喜ばしく感じますことは此の委員會が出来まして以來、私の知て居る範圍に於ては、從來兎角疎隔勝でありました研究所と實地操業との關係連絡が非常に密接親密になつたことあります。斯くあつてこそ本邦の製鋼技術の急速な進歩發達が期待され得るものと信ずるのであります。此の點に關係しましては私は此の委員會に付て非常な御盡力を願て居る俵博士に深厚なる敬意を表する者であります。

### 世界の近況

以上を以て私は我が國に於ける製鐵業の概況を唯ざつと申上げたのであります。翻て全世界に於ける去る 13 年の製鐵業の有様を見ますと、銑鐵の生産額は 80,496,000t でありまして一昨年の 103,921,000t に比して 23% 弱を減じて居ります。鋼塊、鑄鋼を含むの生産額は 106,712,000t でありまして、一昨年の 136,214,000t に比して矢張り 22% 弱減じて居ります。斯く如く昨年に

於ける銑鐵及鋼塊の生産額が著しく激減致しました原因は日本、獨逸、露西亞 3 國の外は殆ど軒並に其の兩者の産額が減じて居る爲でありますが、殊に米國に於ける不振は非常なものでありまして、昨年の米國に於ける銑鐵の産額は 19,082,000t でありまして一昨年の 37,675,000t に比べまして實に 49.4% の減少であります。又鋼塊の産額は昨年は 28,287,000t で一昨年の 52,437,000t に比べまして實に 46% の減少であります。之に反して獨逸の昨年に於ける躍進は非常に目覺しく同國昨年の銑鐵の産額は 18,598,000t でありまして、一昨年の 15,952,000t に比しまして 17% を増し、鋼塊の産額は 23,331,000t で、一昨年の 19,691,000t に比べまして 18.5% を増加致しまして昨年は殆ど米國の量を摩するに至て居ることは驚くべきであります。尙世界主要國の昨 13 年に於ける銑、鋼生産額の比率を擧げて見ると次表の如くであります。

		銑 %	鋼 %
米	國	23.7	26.5
獨	逸	23.1	21.9
ソ	聯(推定)	18.5	17.2
英	國	8.5	10.0
佛	國	7.5	6.0
	計	81.3	81.6

因に此の數字は鐵鋼聯盟の齋藤三三氏の御好意に依て戴いたものであります。

以上を以て私の御報告を終るのであります。時節柄軍事及生産力擴充の爲に此の鐵鋼材の益々必要なる時に當り皆様の御努力に依りまして一日も速く自給自足の域に達しますやうに御盡力を願ひたいと思ひます。

[拍手起る]

## 議 事

### 昭和 13 年度 會務報告

自昭和 13 年 3 月 1 日 至昭和 14 年 2 月 28 日

#### 1. 集 會

通常總會	理事會	評議員會	編輯委員會	鐵鋼覽覽委員會	要領委員會	服部記念會	野田文庫會	文庫委員會	日鋼委員會	資大會	研究部會	臨時講演會
1	11	3	11	1	1	1	1	3	2	3	3	6

#### 2. 會員異動

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入會者	—	5	3	171	491	670
轉格者	—	—	—	+ 156	— 156	0
退會者	—	—	—	6	19	25
死亡者	2	—	—	15	12	29
昭和 14 年 2 月末日現在	14	50	20	1,374	1,557	3,015
前年同期對増減	- 2	+ 5	+ 3	+ 306	+ 304	616